# 石川・横江荘遺跡

1 所在地　石川県松任市横江町
2 調査期間　一九八五年（昭60）六月～九月
3 発掘機関　松任市教育委員会
4 調査担当者　金山弘明
5 遺跡の種類　集落跡・初期荘園跡
6 遺跡の年代　平安時代前期
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

横江荘遺跡は、松任市街地の北東約三㎞に位置し、県下最大の河川である手取川の形成した大型扇状地の北部扇端付近に立地する。周辺は昭和三〇年代まで所所に湧水が認められ、また表土に乏しく微高地では耕土直下で礫層が観察される。

横江荘は、桓武天皇の皇女で、平城天皇の皇妃であった朝原内親王が、伊勢斎宮を辞した後の延暦一七年（七九八）頃、前斎宮賜田として成立したものと推定され、弘仁九年（八一八）には、内親王の遺言により、母の酒人内親王家より東大寺に寄進されている。

木簡の出土地は、荘家跡（史跡指定地）と道路をはさんで西側の地区で、市営テニスコート建設にともなう発掘調査の際発見された。出土地点は、荘家跡中央の南北溝より西へ約五四ｍの位置にあたり、木簡は西に傾斜する斜面上に、約二〇〇点の加工木片及び土師器小壺一点とともに出土した。

木簡を含む加工木片は、細く破砕されているものが多く、土師器小壺片の周辺に集中しているほか、木片包含層を切って作られた東西方向の小溝覆土中からも出土している。加工木片には、短冊状のもの、板状のもの、角棒状のもの、丸棒状のもの、チップ状のもの等が認められ、端部が炭化しているものも少数ある。また、人形二点、人形と見られるもの三点、刀形と見られるもの二点、杭及び木槌の形代と見られるものそれぞれ一点がある。この他、径五㎜程度のタガネ状工具の孔もしくは押圧痕を有する板片がある。木簡及び加工木片の年代は、土師器の年代から九世紀初頭と推定される。

8　木簡の釈文・内容

(1)　・「（符籙）×　　(166)×(33)×10　051
　　・「（符籙）×

出土した木簡は三点で、いずれも破損が著しい。うち一点は表裏

両面に符籙を記した呪符木簡である。また、他の二点は断片であり文字を判読できない。

**9**　関係文献

松任市教育委員会・石川考古学研究会『東大寺領横江庄遺跡』（一九八三年）

（金山弘明）


木簡研究　第七号

巻頭言――刀筆の吏――　土田直鎮

一九八四年出土の木簡

概要　平城宮・京跡　平城京跡　奈良女子大学構内遺跡　法貴寺遺跡　藤原宮跡　長岡京跡(1)　長岡京跡(2)　長岡京跡(3)　百々遺跡　今里遺跡　平安京左京八条三坊二町　平安京左京九条二坊十三町　水走遺跡　西ノ辻遺跡(1)　西ノ辻遺跡(2)　坪井遺跡　忍ケ丘駅前遺跡　普賢寺遺跡　大庭北遺跡　軽里遺跡　堺環濠都市遺跡　池田寺遺跡　道場塩田遺跡　新方遺跡　川岸遺跡　倉見遺跡　前東代遺跡　赤堀城跡　朝日西遺跡　清洲城下町遺跡　沓掛城跡　吉田城三ノ丸跡　坂尻遺跡　秋合遺跡　郡遺跡　神明原・元宮川遺跡　北条泰時・時頼邸跡　千葉地遺跡　千葉地東遺跡　蔵屋敷遺跡　小敷田遺跡　大津城跡　上永原遺跡　野々宮遺跡　野瀬遺跡　小谷城城下町遺跡　尾上遺跡　北方田中遺跡　永田遺跡　膳棚B遺跡　御前清水遺跡　仙台城三ノ丸跡　市川橋遺跡　多賀城跡　比爪館遺跡　大浦遺跡　払田柵跡　馬場屋敷遺跡　百間川当麻遺跡　鹿田遺跡　草戸千軒町遺跡　西庄Ⅱ遺跡　井上薬師堂遺跡　荒堅目遺跡

一九七七年以前出土の木簡（七）

平城宮跡（第三九次）　早川庄八

公式様文書と文書木簡　大庭　脩

中国における最近の漢簡研究　田中　琢

英国出土のローマ木簡　石上英一

木簡史料紹介――牛札――

彙報

頒価　三八〇〇円　〒四〇〇円